

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第84号

[2016年5月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第84号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

今夏もスタディツアーを開催します！

メソトマンスリー

国内から

国際保健医療協力のなかで (33)

編集後記

次号の予定



今夏もスタディツアーを開催します！

2016年9月5日～10日の日程で、

今年もスタディツアーを開催します！

訪問先は、タイ・ミャンマー国境の地メソトの街。

新しくなったメータオ・クリニックの見学に行ってみませんか？

他にも難民キャンプ、移民学校、などメソト周辺に暮らすミャンマー移民・難民の人たちを取り巻く環境をご覧いただける機会となっています。

詳細なスケジュールや参加費、募集要項は決定次第、後日ご案内いたします。

ご不明な点やお問い合わせは、support@japanmaetao.org（スタディツアー担当）まで。

メソトマンスリー

【メソト＝神谷 友子】



メータオ・クリニックのボランティア

メータオ・クリニックでは、海外から医師、助産師、看護師、理学療法士などがボランティアとして現地スタッフと一緒に働いています。

【メータオ・クリニックでのボランティアについて】

<http://maetaoclinic.org/how-to-help/volunteer/>

2月から日本より助産師の藤原千晶さんが産科の病棟や外来でボランティアをしています。どのような活動をしているのかお話を伺いました。

日本では、助産師として総合周産期センターでの勤務、大学で助産学生と看護学生への教育、徳之島での地域医療に従事してきました。途上国でのボランティアを志すきっかけは、小学生の時に教科書で読んだ、途上国で働く助産師の話です。助産師となって海外への憧れはありましたが、実際に踏み出せない現実がありました。そんな時、休暇で訪れたフィリピンの島で村人に助けを求められて、伝統的助産師がお産をとっている場を見る機会がありました。やりたかったことを思い出し、このままだと後悔すると思いました。知人の医師にメータオ・クリニックのことを教えてもらい、JAMのビデオを見て今までの自分の持っている知識や技術で一人でも妊婦さんや赤ちゃんを救えるなら行ってみようと思いました。

産科病棟でのボランティアは、まずは見学するところから始まり、1週間して血压測定などをさせてもらえるようになりました。1か月が経ってやっとお産をとらせてもらえるようになり、3か月たった今、忙しいときに仕事を頼まれるなど、やっと仲間と認められるようになったと感じています。病棟での普段の仕事は、8時からラウンド開始。現地のスタッフと一緒に約50床ある入院患者さんのベッドを回りながらカルテをみて検温、診察をし



ます。その後は外来から入院することになった患者さんや分娩のお手伝いです。時間がある時は、新生児室の赤ちゃんをみたり、出産後お母さんに置き去りにされてしまった赤ちゃんと遊んだり。外来では、1日あたり50～70人ある妊婦健診の担当をしています。

ここでは年間約3000件のお産があり、忙しさのあまり流れ作業のようになってしまう事があります。お産の素晴らしさをもっとお母さんやスタッフに知ってもらい、一件一件を大切にしてほしいと感じています。ボランティアとして海外に来れば、何か役に立てると思っていましたが、簡単なことではありませんでした。あと残り1か月、少しでもいいのでお産の素晴らしさを伝えたいと思っています。

藤原さんは、メータオ・クリニックで現在実施している看護トレーニングのお手伝いもしています。

メータオ・クリニックでは看護トレーニングのお手伝いをしていただける方を募集しています。



外来で妊婦健診をする藤原助産師(写真左)

最近のメータオ・クリニック

4月中旬の水かけ休みが明けて、4月下旬には産科、内科、小児科と全ての入院病棟が新しいクリニックへと移動しました。そして、5月13日には、上記の外来も新クリニックへの引っ越しが済んで、ほとんどの診療が新しいクリニックで行われています。まだ一部建築中の建物がありますが、5月28日のオープニングセレモニーへ向けてどんどんいろいろなものが整備されています。

新しいクリニックでは、ゴミ箱の色でゴミを分別するようにしています。ミャンマーの人たちはゴミをゴミ箱に捨てたり、分別するという習慣がないため、スタッフがゴミ箱に分かりやすく表示をつけたり、患者さんに伝えたりして、新しい病院をきれいに保つようにみんなで頑張っています。建物の中に、手洗い場が増えたのはいいのですが、手洗い用のせっけんの入れ物が足りなくて、せっけんが整備されていなかったり、手洗いタオルなどを洗濯し



て干す時に使う洗濯バサミがなくて、洗濯物がヒラヒラ飛んで行ってしまったり・・・

新しいクリニックに来てからもいろいろな問題が出てきていますが、現地のスタッフと一緒に考えながらひとつずつ解決していけたらと思っています。



検査室の引っ越しの様子。他の部署や休みのスタッフも総出で大きな備品も運んでいます。



小児科外来の引っ越しの様子。部署の責任者を中心にテキパキと作業しています



新クリニックの入り口近くには売店もできました。軽食や入院生活に必要な日用品もそろっています

きょうのゆめ

今回は、看護トレーニングに参加しているメータオ・クリニックのスタッフの Eh Phaung (アポン) さんにお話を伺いました。

アポンさんは、カレン州 Kyin Inn Seik Kyi の村の出身の26歳の男性です。農村地域で生まれ育ち、父親は農業を営んでいます。今は地元の村で10年生までの教育が受けられるようになりましたが、当時は2年生までしか学校がなく、他の村に移って学校を卒業しました。また、村の近くではビルマ軍との戦闘があり、銃声が聞こえてくるような環境でした。二人の兄弟は勉強が好きではなく、学校を卒業したのはアポンさんだけ。卒業後は、難民キャンプ内にある karen economic development course という2年間の学校で、経済の勉強をしました。村に戻っても勉強を生かせる仕事がないため、2013年にメソトに渡ってきます。その後、8か月のコミュニティヘルスワーカー (CHW) の訓練を受けて、メータオ・クリニックの院内感染部門で4か月のボランティア。当時、JAM 現地派遣員として同部署で活動していた YUKA (前川) と AYA (田畑) のことは覚えているとのこと。2014年から、内科病棟にて CHW スタッフとして働き始めました。内科病棟では、患者さんの健康状態をチェックしたり、飲み薬や点滴の準備や実施をします。以前は掃除のスタッフがいなかったため、退院後の患者さんのベットの掃除も CHW の仕事でした。内科病棟では、以前から寝たきりの患者さんの床ずれ(褥瘡)の状態のチェックを、現地のスタッフと一緒にしているのですが、アポンさんもその一人です。とても働き者で、看護トレーニングの生徒の中でリーダーを選ぶときに、満場一致でアポンさんが推薦されていました。

趣味は、サイクリングやパソコンで英語のタイピングゲームをしたり、面白い映画を見ること。夕方の勤務のある日以外は、夕方の涼しい時間に近所を自転車で散策しているそうです。

そんなアポンさんの夢は、看護トレーニング終了後にさらに経験を積んで、特に関心のある薬剤の勉強をしたい。そして、将来はミャンマー国内の他の組織で働いている若い人たちに自分の知識や経験をシェアしたいとのこと。ミャンマーの医療事情は遅れていて、医療に携わるスタッフでもさらに情報を得る必要がある。そのためにもっと勉強をしたい。看護トレーニングに参加したのも、少しでも自分の知識を増やしたかったから。看護トレーニングに参加するまで、マズローの生理的欲求の理論、薬を準備して実施する時に確認する「5 right」、効率よく安全に作業をするための片づけの考え方「5S」のことは知らなかったため、今回参加することができてよかったと思っている。

ミャンマーは今、教育も経済も少しずつよくなってきているけど、たくさんの病気の人がいる。自分がミャンマー国内で次世代の医療従事者の教育ができるようになるのはまだいつになるか分からないけど、ちょっとずつでもいい方向に変えていきたい。とのことでした。

今回お話を聞いたのは、夜勤明けの時間帯だったのですが、病棟から彼に仕事の依頼の電話がかかってきていました。まだ若いスタッフですが、病棟からも頼りにされている感じが感じられました。

勉強熱心なアポンさん、きっと将来いい指導者になることと思います。今後、クリニック内で他のスタッフに看護教育を広げていくにあたって、一緒に活動してくれるようになったら・・・と期待も込めて、アポンさんの夢を応援します！





看護トレーニングのグループワークで、話し合いをまとめているアポンさん(中央)



グループワークの発表も積極的にしています(右奥)

国内から

【東京=森】

好きなもの、とわたし

昨年末より JAM スタッフとして関わらせていただいております、森と申します。いつも皆様から温かいご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。

私は現在、東京都の病院で看護師として働いています。昨年の4月に上京し、社会人として働き始めて先月でようやく1年が経過しました。昨年10月に開催された「グローバルフェスタ 2015」で JAM ブースのお手伝いをさせていただいたことがきっかけで JAM という団体や JAM の支援内容について知ることができ、JAM の活動に少しでも関わることができればと参加する次第となりました。

元々子どもの頃からいつか海外で働きたいという‘夢’があり、学生時代からは将来は医療職として国際支援活動に携わっていきたくて考えていました。わたしはカメラと旅行が趣味なので、学生時代は一眼レフを抱えてタイ、ベトナム、カンボジア、マレーシア、フィリピンなどアジアを中心に1人で旅行したものです。その中でも特にベトナムという国が大好



きで、何度もベトナムに旅行へ行きました。ベトナム人の友人ができ、友人の家に泊まったり、友人と共にベトナム国内旅行をすることなどもありました。わたしの出身大学の研究拠点がベトナムにあることもあり、ベトナムの病院や保健施設での実習を行い、ベトナムの医療・看護・保健・福祉の実情について学ぶこともできました。ご飯が美味しいこと、ビールが安いこと、ショッピングが楽しいこと、出会う人が皆優しいこと、ベトナムの好きなところは挙げていくとキリがないのですが、「何故だかはわからないけれど、すごく好き」というなかなか説明のつかない理由が、私の中では一番大きいのかなと思っています。皆様にもそんな理由はないけど好きなもの、好きなことなどがあるのではないのでしょうか。JAMはタイ・ミャンマーを対象として支援活動が行っていますが、わたしもぜひ現地に行って、感じて、「何故だかはわからないけれど、すごく好き」な場所がまた一つ増えたらいいなと思っています。

現在は、看護師として働き始めたばかりということもあり自分の仕事や東京での生活に慣れることで日々いっぱいになっている部分も多く、なかなかJAMの活動に参加することができていないという現状です。今後、自分の仕事と両立しながら微力ながら少しずつ活動を続けていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

国際保健医療協力のなかで (33)

【東京＝小林 潤】



少子高齢社会に対する保健医療の研究にも取り組むことになった。難題であることが、やればやるほどにわかってくる。高齢化はいわば、我々が取り組んできた公衆衛生と医療の改善の成果でもある。少子高齢化は「先進国病」ともいわれてきており、日本を始めとした一部の高所得国が抱える問題ともとらえられてきた。

しかしながら65歳以上が人口の7%を占める高齢化社会は2020年に東アジア、東南アジアの主要な国は突入し、2030年にはほぼすべての国が高齢化社会になるといわれている。そして日本のように65歳以上が人口の14%を占める高齢社会には2050年には東アジア、東南アジアほぼ全ての国が到達すると世界銀行の報告書において推定されている。すでに先進国だけの問題ではない。「健康転換」といわれるように公衆衛生・医療の改善は目覚ましい成果を収めたようにもみえる。開発途上国においても、乳幼児死亡率は減少し、人生のなかで生物学的にもっとも脆弱な乳幼児期を「感染症」「低栄養」「外傷」といったものを乗り切れるようになったのである。

さらにヘルスプロモーションはアジア各国で活発で、主要な各都市の公園にいけば太極拳やジョギング、さらにはエアロビクスまで毎日のように多くの人がおこなっていることをみることができる。これには、住民の自主的活動を促すため各国保健省は活発な支援をしている成果でもある。さらに生活習慣病やがんに取り組む専門医師は、一部の後発開発途上国を除いてはアジア各国で主要な病院で多く見られるようになってきている。

さてこの高齢化社会、高齢社会は予測できなかったものなのだろうか。そんなことはなく我が国は早くからその対策をとってきた。介護部門の強化とこれを含んだ地域包括ケアは一定の成果をあげている。日本の高齢者に対する保健医療は他国からも注目されており、待遇にはまだ考慮すべきものがあるものの、これらに対する従事者は国内の人的リソースでまかなってきている。同じように高齢化社会に早くから突入した台湾では、人的リソースを海外に求めてきたが、近年これらの人達の帰国による人材不足が起き始めている。すなわち人材を送り込んできた東南アジア諸国でも高齢化社会に突入し自国での需要も増加し、且つ経済発展とともに自国の待遇が改善しているのだ。



よって自国の人的資源に頼っている日本はいいようではあるが、人材供給となる若年層の減少は加速している。しかしながら、これらの根本的解決になる少子化対策については世界に誇れるものは、研究班において今のところ探せていないし、さらにはとんでもない論説もでてきている。高齢者の数が多いし、投票率も高いので、政治家は高齢者対策には強化を行う。一方、結婚適齢期や子育て世代は減少しているし、投票率も低いので、政治家は真剣に政策を作らないし、実施もしないというのである。これが本当に少子化対策に有効な打開策が打ち出されない主な理由だとしたら、なんとも情けない話であろう。日本は教育に多大な投資をしたからこそ成功してきたということは多くの人が認めている。「次世代への投資」なしでは国は本当に衰退してしまう。世界に誇る日本の給食システムであるが、給食費が払えない子供が多くなっている。高等教育を終えた多くの若者が奨学金という借金をかかえて苦しんでいる。生活苦に苦しむ学生を狙い、雇用をしているブラック企業や雇用主までいる。これらの現実はまだ海外には多くは伝わっていないが、高齢化対策で注目される日本の裏の面をみたら海外の研究者や政治家はどう思うのだろうか。この問題については研究開始したばかりである。打開策が見いだせてきたら、また報告したいと思う。

編集後記

半そでで過ごせる日が増えてきました。今年の夏は暑くなるのかな？

毎年恒例の夏休み時期のJAMスタディツアーを今年も開催予定です。現在、現地との細かい打ち合わせをして詳細を決めていっているところです。

今年も、たくさんの皆様にご参加していただき、現地の雰囲気を感じていただければ幸いです。詳しい募集要項が決定次第、改めて会報やフェイスブック、ホームページにてご案内しますので、ご検討のほど、どうぞよろしくお願い致します。問い合わせもお気軽にどうぞ。

次号の予定

次号は、6月中～下旬ごろ配信の予定です。

ホームページは、随時更新していきますので ぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。

支援の輪が広がっていくよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年 【学生会員】1,825円/年 【法人会員】36,500円/年

当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。



NPO法人メータオ・クリニック支援の会

Japan Association for Mae Tao



Clinic (JAM)

日本事務局宛て E メール : support@japanmaetao.org

ホームページアドレス : www.japanmaetao.org

フェイスブック : Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。



